自己評価アンケート

アンケート集計（R6.12月実施）

1．学校の教育目標

技術・人間性において全国で通用する学生を育成する

2．本年度、来年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①多様性に通用すべく、幅広い知識や技術を学ぶ姿勢を養う

②コミュニケーション能力の向上。社会に出て恥ずかしくない礼節やマナーを身につける

③成長のために自ら行動し、自分の強みを周りにアピールする

3．評価項目の達成および取組状況

（1）．教育理念・目標

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
1-1.	学校の理念・目的・育成人材像が定められている（専門分野の特性を明確にする）	2.7	2.4	+0.3
1-2.	学校における職業教育の特色を理解し、生かす	2.8	2.6	+0.2
1-3.	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想をもつ	2.4	2.5	-0.1
1-4.	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などの学生・保護者への周知に努める	2.8	2.0	+0.8
1-5.	各科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけされている	2.5	2.2	+0.3

【課題と今後の改善策やご意見】

【学校関係者評価委員コメント】

・「挨拶」を見れば「学校の教育」が分かるといってもいい

・全体的に評価は上がっているので改善の意識が高まっていると思われる

（２）．学校運営

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
2-1.	目的等に沿った運営方針の策定をする	2.7	2.2	+0.5
2-2.	運営方針に沿った事業計画の策定をする	2.6	2.2	+0.4
2-3.	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化され有効に機能している	2.2	1.6	+0.6
2-4.	人事、給与に関する規定等の整備をする	2.8	2.0	+0.8
2-5.	教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備をする	2.7	2.0	+0.7
2-6.	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備をする	2.7	2.1	+0.6
2-7.	教育活動等に関する情報公開を適切に行う	3.0	2.3	+0.7
2-8.	情報システム化等による業務の効率化を図る	2.5	1.9	+0.6

【課題と今後の改善策やご意見】

〇それぞれの職員に校務分掌を決めることで、範囲を超えた業務や校長からの指示などが無いようにする必要がある
〇業界全体が人材不足などにおける人材確保の為新卒採用者に対しても給与を上昇させている。新たな教員を確保していくためにも給与のベースアップは必要だと感じる

【学校関係者評価委員コメント】

・分業の明確化と業務範囲の見直しにより、職員の負担軽減が今後の課題
・教員確保に向けて、給与ベースの見直しが不可欠
・教員不足のなかで、魅力ある職場づくりが必要
・全ての項目において前年を上回り、学校運営の向上がみられる
・保護者への情報も月１回出来ているとのことで継続をしていくことが大切
・賃上げは社会的な流れなので、職員給与も可能な範囲で上げる必要がある

（3）．教育活動

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
3-1.	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等を策定している	2.8	2.1	+0.7
3-2.	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保を明確にしている	1.9	2.1	-0.2
3-3.	学科等のカリキュラムを体系的に編成する	2.3	2.1	+0.2
3-4.	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などを実施する	2.5	2.5	―
3-5.	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等を行う	2.5	2.3	+0.2
3-6.	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）を体系的に位置づける	2.6	2.6	―
3-7.	授業評価の実施・評価体制は整っている	1.9	2.0	-0.1
3-8.	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れる	2.3	2.7	-0.4
3-9.	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確にする	1.9	1.9	―
3-10.	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけをしている	2.2	2.4	-0.2
3-11.	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保している	2.0	1.9	+0.1
3-12.	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントを行う	2.1	1.8	+0.3
3-13.	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組を行う	2.2	1.8	+0.4
3-14.	職員の能力開発のための研修等を行う	2.0	1.4	+0.6

【課題と今後の改善策やご意見】

〇3-9の項目に関しては、本当にあいまいな部分が多いので、こちらもどこまで対応すべきか悩んでしまう。1年生の3学期の時点で、一定の欠課数に達している学生は進級できないなど何か基準を明確にしないと2年生の担任をする職員は大変だと思う。全てにおいて不明確なことが多いので、特に学生に関わることについては明確な数値化をしていただきたいです。切実に
〇公開授業などを行い、教員間で指導法などの情報共有をしたらいいと思う
〇掃除の徹底を学生に声掛けしていかなければならない
〇教員の指導力養成の為に文科省・県教委等の研修への参加や教育技術指導を受ける必要性があると思う

【学校関係者評価委員コメント】

・教育の「見える化」はさらに必要であり、積極的に進めるべき
・学生目線でのカリキュラム調整も課題・(3-9)について、判定の基準が前年同様評価なので改善を早急に行うべき
・1年の学期別に早めの指導を行う体制を構築・掃除の徹底は、アンケートの何番になるのか
・(3-9)について、2年間での取り扱いで考える。単位不足(出席日数)は2年間+補修で補える場合以外は考慮しない。学校として預かった以上は国家資格合格が責任であるので、ある程度の数値化は必要・生徒は合理的な説明がなければ納得しないので、指導する職員も研修を受けることで安心して生徒と向き合える

（４）．学修成果

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
4-1.	就職率の向上を図る	3.0	2.6	+0.4
4-2.	資格取得率の向上を図る	3.0	2.8	+0.2
4-3.	退学率の低減を図る	3.0	2.4	+0.6
4-4.	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握する	2.8	2.6	+0.2
4-5.	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用している	2.2	2.3	-0.1

【課題と今後の改善策やご意見】

〇昼間課程から通信課程や他業種への進路変更を伴うものがが多く、能力不足による退学ではない。憲法上の「職業選択の自由」の観点から退学させないようにするというのはどうなのか

【学校関係者評価委員コメント】

・(4-5)項目が前年、今年も低いので改善していく
・生徒は理容師、美容師を目指して入学しているので、学校の対応としては生徒がやる気がある場合は見捨てることなく面倒を見る必要がある
・生徒は専門知識と技術を学びにきているので、学校側は学習することで得られる将来のビジョンを伝える
・選ばれる職業にするために、魅力のある仕事であることを伝える

（5）．学生支援

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
5-1.	進路・就職に関する支援体制を整備する	3.0	2.7	+0.3
5-2.	学生相談に関する体制を整備する	2.9	2.8	+0.1
5-3.	学生に対する経済的な支援体制を整備する	3.0	2.8	+0.2
5-4.	学生の健康管理を担う組織体制がある	2.4	2.3	+0.1
5-5.	課外活動に対する支援体制を整備する	2.8	2.4	+0.4
5-6.	学生の生活環境への支援を行う	2.1	2.2	-0.1
5-7.	保護者と適切に連携する	2.9	2.3	+0.6
5-8.	卒業生の支援体制がある	2.6	2.2	+0.4
5-9.	社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備をする	2.0	2.2	-0.2
5-10.	高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組を行う	2.6	2.4	+0.2

【課題と今後の改善策やご意見】

【学校関係者評価委員コメント】

・個別支援体制のさらなる強化に期待
・学生に対する「生活環境への支援」と「教育環境の整備」の伸びが乏しい
・ネイル等新しい分野への教育展開をしているが、ニーズを踏まえた分野の構想を想定していくか

（6）．教育環境

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
6-1.	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備する	1.8	1.8	ー
6-2.	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備する	2.0	1.9	+0.1
6-3.	防災に対する体制を整備する	2.8	2.0	+0.8

【課題と今後の改善策やご意見】

〇古い設備への改善がなかなかされない
〇正しい使用方法や丁寧に扱うことを学生にも伝えていく必要がある
〇学生の人数に対して、使用できる教室や設備が少ないので十分な教育活動ができない
〇学生数に対し、教室数や設備が不十分であり、適正な学級経営が困難である

【学校関係者評価委員コメント】

・長期的な設備投資計画が必要である
・設備投資と学内外での実習の数を増やせていければ良い
・学納金により運営しているので、教育環境の整備は必須である。必要な設備は現場の声を聞いて改善していく
・教育環境の改善や充実に取り組み、教育水準の維持向上を目指す

（7）．学生の受入れ募集

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
7-1.	学生募集活動は適正に行う	3.4	3.0	+0.4
7-2.	学生募集活動において、教育成果を正確に伝える	2.9	2.7	+0.2
7-3.	学納金は適正かつ妥当なものとなっている	3.0	3.0	0

【課題と今後の改善策やご意見】

〇教育成果について、高校生に伝えている事と実際の教育に差異を感じることがある

【学校関係者評価委員コメント】

・募集活動は適正であるが、受け入れ後の教育体制の整合性を高めるべきである
・教育成果は正確に事実を伝える
・オープンキャンパスを頑張っていて好評である
・募集時の話と入学後の状態が異なっていれば生徒は不信感を抱く。情報は正確に伝える
・広報活動をデモンストレーションする。教育現場において齟齬がないよう継続していく

（8）．財務

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
8-1.	中長期的に学校の財務基盤の安定化を図る	2.5	2.4	+0.1
8-2.	予算・収支計画は、有効かつ妥当に策定する	2.7	2.3	+0.4
8-3.	財務について会計監査を適正に行う	3.0	2.7	+0.3
8-4.	財務情報公開体制は整備されている	2.7	2.5	+0.2

【課題と今後の改善策やご意見】

〇材料費の予算は適切なのか，2年進級時に追加徴収が必要なのでは？

【学校関係者評価委員コメント】

・材料費や学納金に対する保護者、学生の理解促進も課題
・教育と経費のバランスを今後も丁寧にとること
・材料費は現在の値上げ情勢を鑑みて決めていく
・物価高で材料費の見直しは必要である

（9）．法令等の遵守

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
9-1.	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営をする	3.0	2.1	+0.9
9-2.	個人情報に関し、その保護のための対策をする	2.9	2.4	+0.5
9-3.	自己評価の実施と問題点の改善を行う	2.7	2.0	+0.7
9-4.	自己評価結果を公開する	3.0	2.3	+0.7

【課題と今後の改善策やご意見】

〇問題点の改善がされていない箇所も多いように感じる
〇自己評価の文言を見直してみてもいいのではと感じる

【学校関係者評価委員コメント】

・体制は整ってきており、安心感がある
・今後はリスク管理とガバナンスの面から点検も必要である
・問題点が分かっていれば早急に対応、改善していく
・自己評価の文言で気になったところがあれば、担当者で検討をし、問題点の改善は職員会議の場で話し合うこと

（１０）．社会貢献・地域貢献

	評価項目	評価		
		今年度	前年度	比較
10-1.	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行う	2.8	2.4	+0.4
10-2.	学生のボランティア活動を奨励、支援する	3.0	2.4	+0.6
10-3.	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施する	2.6	2.0	+0.6

【課題と今後の改善策やご意見】

【学校関係者評価委員コメント】

・社会的に学校の存在を認知してもらうために様々な活動を行いメディアを活用する

【総括】

自己評価が上がっているのは運営側と現場の職員の思いが近くなっているからだと思うので、今後も職員間でよく情報交換・共有をしていくべきである